



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

「センター評議員会を開催しました」	p.1
「見方・考え方が働く単位をつくろう⑦（音楽科）」	p.2
「研修講座から」	p.3

センター評議員会を開催しました

10月5日(月)に評議員会を開催しました。

当日は、所内での研修や生徒実習の様子をご見学いただいた後、研修、生徒実習、研究調査、教育情報、教育相談の各事業についてご説明させていただき、事業についてや当センターに期待することなど、様々な立場の方から、貴重なご意見をいただきました。

いただきましたご意見は、今後の事業運営及び研修講座づくりに反映させてまいります。



先端機器を使った生徒実習の視察と施設見学



研修講座の視察



評議員会の様子



見方・考え方が働く題材をつくろう⑦ ～音楽科～

音楽的な見方・考え方とは 【学習指導要領（H29 告示）解説より】

「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、**音楽を形づくっている要素**とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や（社会、伝統や）文化などに関連付けること」 ※（ ）内は中学校

【小】ア:音色,リズム,速度,旋律,強弱, …など
イ:反復,呼びかけとこたえ, 変化, …など

【中】音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成など

児童生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習するには、どのような場面や活動を位置付けたいのでしょうか。



【例】小6 題材名「日本の音楽に親しもう」（全2時間） 教材：雅楽「越天楽」、「越天楽今様」

A表現（1）歌唱 ア、イ、ウ（7） B鑑賞（1）ア、イ 【共通事項】（1）

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「旋律」

第1時 雅楽「越天楽」



なんだか変な音楽だな。
でも、日本らしい感じがするな。

「日本らしい感じがするのはなぜでしょう？」



・「コンコンコンコン…」は太鼓だな。
打楽器だな。
・「ブエーン」と鳴っているのは何だろう。聞いたことのない音だな。

【活動例①】聴こえた音を、擬音語等で書き出しながら聴く。

一つ一つの楽器の音色に着目しながら聴き、聴こえた音を文字にしてみることで、雅楽の楽器独特の音色や質感に気付いていきます。気に入った楽器の音色を足がかりに、少しずつ曲との距離が縮まっていきます。

・フルートの音に似ていたのは竜笛リゅうてきというのか。吹き方も似ているな。
・「ブエーン」と鳴っていたのは篳篥ひちりきだな。オーケストラには無い音だな。

【活動例②】既習のオーケストラの音楽と比較しながら聴いたり考えたりする。

教科書や視聴覚教材等を使いながら、雅楽の楽器の名前や材質・構造等を確認したり、演奏場面を見たりして、オーケストラと比較するよう促します。比較することで、雅楽ならではの特徴や雰囲気について考えやすくなります。



はじめは変な音楽だなと思ったけれど、一つ一つの楽器の音にすごく個性があっておもしろかった。笙しょうの音は初めて聴いたけれど、光が広がっていくようなきれいな音で、篳篥ひちりきの音はクセが強くてオーケストラには無い音だった。こういう音が重なり合っているから、日本らしい感じがするのかな。

第2時 「越天楽今様」



なんだか歌いにくいし、暗い感じだな。

【活動例③】階名唱で旋律を覚える。音調べをする。

階名唱をすることで、既習の「さくらさくら」や「子もり歌」のように旋律が五音音階でできていることを知り、「暗い」という最初の印象が、音階のもつ雰囲気からくることに気付いていきます。

「さくらさくら」や「子もり歌」と同じように、五つの音でできているんだ。だから日本っぽい感じがしたんだ。

【活動例④】平安～鎌倉時代に流行したように、自由に歌詞をつけて歌ってみる。

七五調で作れば、どんな歌詞でも“越天楽今様”になって、おもしろいな。昔の人たちも替え歌みたいなことを楽しんでいたんだ。

七五調の歌詞を自分たちで考えて歌うことで、旋律に親しむとともに、当時の音楽文化への理解を深めることができます。その後、もとの歌詞で再度歌うことで、文語体の歌詞と旋律との組み合わせのよさに気が付き、「しっとりと歌いたい」といった表現への思いをもつことにつながります。

さらに、もう一度雅楽「越天楽」を聴くことで、音色・旋律の働きを知覚しながら曲全体を味わって鑑賞することができます。



「越天楽今様」は五つの音でできているから、暗い感じや日本っぽい感じがするんだと思った。自分たちでいろいろな歌詞をつけて歌ったら楽しくて、「越天楽今様」が少し身近になった。最後にもう一度雅楽「越天楽」を聴いたら、楽器の音色と旋律がマッチしていて、この独特な感じがいいなあと思った。

このように、音楽を形づくっている要素を視点に音楽を捉えていく経験を積み重ねていくことで、初めて出会う音楽に対しても、音楽的な見方・考え方を働かせて学んでいくことができます。子どもたちが音楽的な見方・考え方を働かせながら学習できる場面や活動を創意工夫していきましょう。

研修講座から

ICT活用 応用ⅡB

9月11日実施

この講座は、現有のICTを活用して授業改善を図り、ICT活用の有用性と研修の手立てを校内で共有していただきたいという思いで開講され、15名の方が受講しました。

<講座のねらい>

- ・教育の情報化と機器の特性について理解する。
- ・授業場面や学習形態に応じた教材作成技術を身に付ける。
- ・作成教材からICTを使った授業づくりを考える。



<講座の内容>

(講義Ⅰ) 教科等の指導におけるICT活用

先生が一斉授業で使うタブレットPC活用のポイント

(実習Ⅰ) タブレットPC・電子黒板を使ってみる

デジタルプリント教材の作成方法と教材作成

(講義Ⅱ) 児童生徒が使うタブレットPC活用のポイント

(実習Ⅱ) クラウドサービスを活用した協働学習教材の体験

「各地の気温を予想しよう」～数値のグラフ化～

(実習Ⅲ) Excel共有ブック機能を活用した協働学習教材の作成

「教材作成と共同編集」～協働による文書編集～

(教材研究) 「作成教材の発表と体験、活用実践」

(体験実習) オンライン学習の体験



◆◆◆受講者ふりかえりから◆◆◆

- ・普段の授業力の上にICT活用がある。板書を大切にしつつ、ここぞの場面でICTを活用するという考え方は、とても大切だと感じた。
- ・デジプリは、すぐに授業や生徒会で活用することができると感じた。共同編集は研究データの共有やまとめの場面で、生徒が喜んで行うのではないかと感じた。
- ・子どもたち同士の支援は、別の子どもの指導をしている際の手立てになる。グループ活動は効果的だと、改めて実感した。複数人で一つのものを作っていくということに魅力を感じた。
- ・どこにICTを取り入れるかを考える。ICTだけでは意味がない、授業力を上げていくことが大切である。

講座の様子

